

第5回小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略等推進委員会

日 時 平成31年1月31日(木) 午後6時30分～午後8時25分

場 所 第二庁舎6階 601会議室

出席委員 5人

委員長 渡 邊 嘉二郎 委員

副委員長 小 川 順 弘 委員

委 員 松 本 敏 朗 委員 橋 田 壤 志 委員

天 野 建 司 委員

欠席委員 4人

委 員 鴨 下 明 子 委員 小 宮 貴 大 委員

本 間 紀 行 委員 沼 崎 明 大 委員

---

事務局職員

企画政策課長 梅 原 啓太郎

企画政策課企画政策係長 古 賀 誠

企画政策課企画政策係主任 金 原 真紀子

---

傍 聴 者 2人

(午後6時30分開会)

◎渡邊委員長 本題に入る前に事務局から本日の委員会について確認事項があるとのことですので、事務局から説明をお願いします。

◎古賀企画政策係長 本日の委員会記録についての確認です。本委員会につきましては、平成30年7月31日の委員会において全文記録と決定したところですが、本日は前回のワークショップの続きとなります。前回に引き続き、ワークショップの作業及びその関連する部分に限り、省略させていただきたいと考えております。

具体的には、本日の議題1及び議題2が対象となります。委員会記録中、ワークショップの作業部分について、「(ワークショップ)」、委員の皆様から御意見を出し合っていた部分には「(各委員からの意見)」との記載のみとなり、委員発言部分はすべて省略されます。

◎渡邊委員長 事務局から本日の委員会記録について説明がありましたが、本日は前回の続きになりますので、その部分に限り省略するという整理でよろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎渡邊委員長 それでは、本日の委員会記録はそのようにさせていただきます。

---

◎渡邊委員長 それでは本題に入ります。

ただいまから第5回小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略等推進委員会を開催します。初めに私の方から発言させていただきたいんですけど、今日の議題を見ていただきますと、ワークショップということで前回の続きというのと、未来の小金井市の目指すべきまちのイメージの実現手段についてという議題になっております。

この2番目の議題にも係わるんですけど、この委員会の全体の枠組みも含めてですね、この実現手段に参考になるような話を松本委員の方で研究されてまとめていただいたということがございます。それで、ワークショップに入ってしまうとだらだらいってしまうかもしれないので、初めに研究成果をお話ししていただいて、今後の議論に役立てればと考えています。その進め方でよろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎渡邊委員長 それでは、そのようにさせていただきます。松本委員、お願いします。

◎松本委員 委員長から御紹介いただいたんですけど、そんなに大それた話ではなくて、前回行ったワークショップの行き先が私自身よく分からなかったので、ペーパーに起こしてみたという程度のものです。

一応、ドラフトを作りましたので、一通り説明させていただくということでよろしいでしょうか。

◎渡邊委員長 はい。

◎松本委員 今後の予定としては、「30年後、小金井市が「住みよさランキング」で上位に入りました。その理由は何でしょうか？」というテーマがあって、「未来の小金井市の目指すべきまちのイメージについて、全体で5個程度(最大10個)の「〇〇なまち」というフレーズにまとめる。」「「〇〇なまち」を実現するために、これからどのようなことに力を入れていくべきか、その実現手段について、各委員から意見を伺う。」という作業を経て、結果的に「まち・ひと・しごと創生総合戦略等推進委員会」として、今後作業入りする「長期計画審議会」へ「あるべきまちの姿」を提言するというようなミッションだと思います。もう一度全体を振り返ってみますと、第4次基本構想というのは現にあって、これが第5次基本構想に変わっていくんだと思うんですけど、同時にまち・ひと・しごと創生総合戦略や行財政改革2020というのが併存してしまっていて、今後こういうものをどういうふうにおさめていくのかという話になります。その作業に30年後のあるべきまちの姿をはめ込んでいくのですから、単にあるべきまちの姿を並べるだけではあまり意味がないんじゃない、ちょっとステップを踏む必要があるんじゃないかというのがこのペーパーの趣旨です。

2ページ目に「あるべき姿」を考える前段階の作業として2つ並べてますが、一つは現状分析をやらないことには先々どんなことと言ってもほとんど意味がないので、そこはきちんと踏まえるのが必要じゃないか、当然良いところ、悪いところ、足りないところとかあるんですけど、仮に今よくてもこれから待ち受けている環境の変化というものがあって、今のままで

そのまま行けるという保障は何もないじゃないかというのが一つです。それからもう一つは何が不足かというところで、経済力の弱さというふうに書いています。後の方に資料を付けているんですが、RESASという国の方でまとめたデータがあるんですが、そういう資料を見ても小金井市の経済力の弱さというはずば抜けているというパフォーマンスになっていますので、そこを放置して、あるべきまちの姿というのを考えても意味がないのではないかとというのが二点目です。

どんな環境変化かということですが、高齢化とかAI進展とか、AI進展についてはよく分からないんですけど、少なくとも高齢化というのは相当ダメージというか影響があります。小金井は12万人住んでいますけれど、持ち家に住んでいる方が高齢化していくことになれば、生活的には年金に依存していく割合が高まり、市の歳入面にも影響し、行政サービスにも影響が及ぶでしょう。また、私にも経験がありますが、高齢者を見守るということは大変なことなんです。ここに手当をしないでもいいまちだと言ってもほとんど意味がないでしょう。

一方、地方の人口減少というのは、結局それは今まで地方から都会へ人が流入してきたんですけど、今後その要素は相対的に少なくなっていく、あるいはどこの自治体でもこういうまちづくり戦略とかいうのをやっていますから、相対的に小金井市の地位が低下していけば、今住んでくれている若い人が違うまちを選好していくことも起こるでしょうから、近郊のベッドタウンとして優れたまちだと言っても足元は危ないところがあるんじゃないかというのが例の2です。

それから経済力のところでは、例えば商業力、データで見るとこの20年で数割減少していて、このままいけばゼロに近づいていくんですけど、そういう中で本当に経済力について手を打っていかなくていいのかという問題があるだろうというものです。経済の問題はいろんなところで問題意識を持っていて、特に状況の悪い地方ほど経済問題に必死に取り組んでいまして、いろいろなことをやっていて、それなりの成果が出ているというのがありますがけれども、片方でそういうところだっただんどん高齢化するので、今がんばっていても将来は心許ないということもあるんですが、少なくとも先行実施例があるということですね。

1、2を踏まえた上であるべき姿というのをこれから議論することになると思うんですけど、単にあるべき姿を作っただけではほとんど画餅に帰すというのが常ですから、これを具体化していくということが必要なことだろうと思います。何でもできるわけではありませんから、優先順位をつけ、短期、中期、長期という時間の要素を加味して、実行ステップを考えながら具体的な施策を構築していくことが大切だと思います。

それから留意すべき点として2つ並べてます。市民目線とか市民（団体）参加型、各種団体の活用と書いていますが、民間が動かないことには何も変わらないでしょう。多分第5次計画もコンサルが入ってやると思うんですけど、そういう始めの作業時点から市民、市民団体に積極的に入ってもらうのがいいのではないかと思います。市民団体参加型というのは重要なポイントで、実施例としていろいろあります。それと言わずもがな話なんですけど、持続可能性

とか私経済と公経済、財政問題とかありますので、そういうのを織り込んで考えていかなければならないというのが私が流れとして想定したものです。

序に参考資料を説明しておきたいと思います。国が持っているRESASというデータベースから、小金井市の経済関係のデータを取り出すことができます。絵図で、分配というところが外から入ってくる、外で稼いでくるお金のウェイトです、これは結構高い。この入ってきたお金を市民がどういうふうに使っていくかというのが支出の図になるんですけど、域外で買い物をしているとか投資をしているとかいう割合が相当高くなっているんで、結果的に地域経済循環率は51.4%、半分程度が外からの稼ぎ、それから外への消費に充てられているというのが小金井の位置づけで、生活実感にかなり合うような気がします。上の絵図の見方を変えて紹介したのが下の表です。企業数が2,066あるんですけど、製造業が68企業、極めて第二次産業が弱いこと、あるいは農林が、これは企業だから2企業しかありませんが、農林の分野が非常に少ないということです。また、通勤者は、域外へ38,657人、域内へ16,603人、差引22,000人が外に稼ぎに行っています。少なくとも相当の人が外に稼ぎに行っているというのが裏付けられるデータかなというふうに思います。

5ページの表は、全国何千の市町村の中で小金井の位置取りがどれくらいかというの示しているんですが、ざっと見ても1,423位とか1,041位とかかなり桁数が多くなっているということですから、経済的に見ると小金井というのはかなり下の方の位置取りに甘んじているのではないのかなと思います。また、商業売上高については先ほど言ったんですが、20年の間に1,400億円が900億円前後に減っているわけですから、相当の落ち込みということになります。

6ページはこの委員会で当局からいただいた資料をそのまま入れてあります。

7ページですが、新聞記事を見ますと国連のSDGs、持続可能な開発目標というのがあって、各地域でも参考にしているということですが、環境分野で水、資源、気候変動対策等、社会分野で教育、健康、まちづくり等、経済分野で経済成長、不平等の是正等といったような指標が並んでいますので、これは今の作業に少しは参考になるのではないかと思います、参考として入れておきました。この国連の指標を基に日経が調査して市町村を順位付けしていますが、1位は京都市で、20位八王子市、25位三鷹市ということのようです。

2は、住宅地にシェアオフィスという記事ですが、働く人にとってはこういった方法も役立つかもしれません。

それから3は、各地域で、様々な形で住民の質を向上させるためにいろんなことに取り組んでいるという紹介記事です。

最後のページが、これは枝廣淳子さんの岩波新書から出している「地元経済を創りなおす」からの引用です。地域では、外からいろんなお金が入ってくるけど、それがその地域というバケツの中でぐるぐる廻っていかないで外に漏れてるんじゃないか、そういう漏れバケツというのがあるので、漏れるのを防ぐということを考えないと、いくら補助金をもらったりして入れ

ることだけがんばってみても、地域として活性化はしませんよというのが著者の主張の1点です。真ん中にこれからの地域経済振興策という絵図がありますが、漏れバケツからの漏れをできるだけ防いで、域内で一次消費、二次消費、三次消費と乗数効果が働くようにシステム的に取り組んでいくことが大事だということを言っています。

その下の絵図は水俣市が取り組んでいることの紹介ですが、参考になるのではないのかなと思ひ、付けておきました。

一番下にNHKの地域づくりアーカイブスというのをメモしています。これは誰でも検索することができるんですけど、いろんな市町村とか地域で取り組んでいる施策を動画で紹介しています。参考になるものがあるかもしれません。

いろいろ書いてしまったんですけど、大きな方向としてこういうことに気を付けながら作業をやったらどうかなのがこのペーパーの意味合いです。

◎渡邊委員長 いろいろまとめていただいて、ありがとうございました。

一応、僕も松本委員から推薦があった本を読んできたんですけど、漏れバケツの話はあまり読まなかった。

この議論の大枠をある意味で示してくれたというふうに思っています。せっかくですから、皆さんからコメントとかありますか。質問でもいいと思いますけど。

ちなみに、資料の7ページで、1位京都市、20位八王子市、25位三鷹市とありましたが、小金井市は何位ですか。

◎松本委員 40位まで記事に載っているんですけど、少なくとも40位までにはないですね。

◎渡邊委員長 三鷹市のすぐそばにあるんですけど、何でそんなに違うんですかね。三鷹には横河電機があるか。

◎松本委員 横河さんは昔からいろいろとがんばっていますね。

◎渡邊委員長 何か皆さんの方から御質問とかありますか。事務局はどうですか。

◎梅原企画政策課長 大丈夫です。

◎渡邊委員長 それでは今後の議論に生かしていただきたいと思います。

---

◎渡邊委員長 それでは議題1「ワークショップ」を議題とします。これからワークショップを始めたいと思います。

(ワークショップ)

◎渡邊委員長 以上で議題1を終了します。

---

◎渡邊委員長 次に議題2「未来の小金井市の目指すべきまちのイメージの実現手段について」を議題とします。

皆さんのアイデアを6つにグループ分けしたところですが、これらを実現するために、これからどのようなことに力を入れていくべきか、その実現手段について各委員から御意見を伺い

ます。

(各委員からの意見)

◎渡邊委員長 以上で議題2を終了します。

---

◎渡邊委員長 次に、議題3「次回の開催日」について、事務局から説明をお願いします。

◎古賀企画政策係長 次回の日程調整については事前に行わせていただき、既に御案内もさせていただいているところですが、2月14日(木)18時30分からとし、開催場所については追って連絡いたします。

◎渡邊委員長 以上で本日の議題はすべて終了しました。おつかれさまでした。

(午後8時25分閉会)